

# 令和7年度 大田区立矢口東小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和8年3月14日

本校は昭和2年(1927年)に東京都荏原郡矢口東尋常小学校として開校以来、今年で98周年になる。卒業生は1万人を超え、親子3代にわたって矢東が母校という地域の人も多い。校地は東急蓮沼駅より徒歩5分、多摩川線矢口渡駅から10分の便利な場所にあり、多くは戸建てや小規模な集合住宅が建っている。大規模な集合住宅はなく、現在、全校児童327名在籍している。児童は全体的に落ち着いた学校生活を送っている。本校の教育目標は「自ら学ぶ子、心豊かな子、たくましい子」であり、知、徳、体のバランスの取れた教育を目指している。今年度の重点目標に「心豊かな子」を掲げ、児童一人ひとりが自己肯定感を高め、他を思いやる心を育み、人とのかわりを改めて深める教育をすすめていく。また、将来本校に在籍している児童が、しっかりと自立して社会に役立つ人間になれるよう、3年間取り組んできた研究の成果としたキャリア教育を念頭に教育目標の実現に向け、全教職員、地域と連携してが力を合わせて教育活動を行っていく。

## ○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 後の改善策	学校関係者記入欄				
								評価 人数	コメント			
予 個 別 困 難 標 本 1 未 来 社 会 を 創 造 的 に 生 き る 力 を 育 成 し ま す	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート(C)から学習した知識や技能を活かそうとしている。	4: 85%以上	○主に未来づくり科や総合的な学習の時間に意識して取り組めた。 ○年間計画を作成し、実施することができた。 研究で年間計画も立てたため、他教科とのつながりを意識して授業をすすめることができた。 ○校外学習では、算数の計算を使って買い物を行った。お金が足りないときには何かをあきらめるか、買うものを変えようとする力が付いている。一方で、身に付いていない学級もある。(五組)	A	10	○学校・教室だけでは難しいと思うが、「予測困難な未来社会…生きる力」には、学力、体験、学び方を示すと同時に問題を解決する、向き合う心の強さを育成できる環境ができればとも感じる。(トラブルが起きた時には自分はどう考えるかなど)受け身に慣れすぎず自分でやらねばという危機感を感じることができれば自ら考え、深く知り、学ばねばという意識に自然になるのではないかと。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								◇タブレット操作の学習も必要だと思います。ただ、それだけでずと漢字が書けなくなったり考える力が弱くなったりするかもしれませんね。	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。									◇児童が自ら考えて意見を出せるようになるのは、先生方と児童の距離感がよいからと感じている。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。									
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	3: 75%以上	4	○校外学習や体験活動では一つ一つの学習で良い結果が出ている。共同の部分では、各自がきちんと役割を把握し責任をもって活動に参加できている。 ○多様な分野の方をゲストティーチャーとして、招聘して授業を行った。 ○生活科や社会科見学に加え、さまざまな体験学習を取り入れた。	B	1	◇この項目は、1年生からの積み上げがより大切になってくるのではないかと感じます。先生方のご苦労を感じます。		
			3:85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。									
			2:70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。									
			1:「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。									
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	2: 65%以上	4	○ICTサポーターと協力して、適切なタブレットの使用方法和情報モラルについて考える時を設けている。 ○タブレット端末を活用し、調べ学習を行ったり、まとめたりした。ICT支援の方に教えてもらいながら取り組むことができた。 ●タブレット操作はほとんどしていない。タブレット学習の必要性を感じていない。	C	0	◇4年生の息子が、タブレットを使って課題に取り組んでいる。画像編集で遊んでより使えている。		
			3:85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。									
			2:70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。									
			1:「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。									
		④知識や技能を習得させるための学び方の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	1: 65%未満	4	○知識・技能の習得は常に目指している。主体的・協働的な学びにするために、さまざまな学習方法で知識・技能を身につけられるようにしている。 ○常に形成的な評価を行い、知識や技能の定着を図った。 ○それぞれの教科でねらいを達成できるように、取り組みを工夫している。	D	0			
			3:85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。									
			2:70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。									
			1:「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。									

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
個別目標2 世界とつながる国際都市をおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	児童アンケート(生活5)や保護者アンケート(B)から友達やまわりの人と協力し合うことができる。	4: 85%以上	○外国語教育指導員の学習はとても楽しく参加している。児童が恥ずかしがることなく能力の向上につながっている。 ○ALTとともに授業を展開している。スピーチコンテストに出場した児童も何人かいる。 ○外国語教育指導員と連携しながら外国語活動を充実させている。	A	9	◇他者と関わり合いながら、他者に貢献することで、自分も生きやすくなるのが伝わるとよいと思います。  ◇日本地図を学び、日本のことを知ろうとする意欲が見られる。展覧会でも4年生で神社などもあり日本に興味を示しているように感じる。  ◇自然な形で母国語と外国語が学べる状況がより重要になってきているように感じます。
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	3: 75%以上	○外国籍の児童が身近にいることもあり、異なる文化の理解は高まっている。学校全体教育活動の中で行っている。 ○社会科の学習では主に、郷土の伝統文化に触れている。 ○道徳の時間を中心に人権意識を養っている。学習指導要領ののっとり、題材構成している。				
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	2: 65%以上	4 ○地球規模ととらえることは難しい。社会科での関連事項を新聞を読み、現代社会に起こっていることを知らせ、考えさせる時間をとっている。 ○SDGsを意識して各教科、領域において指導した。低学年なりに気持ちよく過ごせるように自分たちができることを考えて行動している。				
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		④自身を見詰め、他者と協力し合い、よりよい未来を創っていくとする。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	1: 65%未満	○自己理解、他者理解は日々取り組んでいる。それがよりよい未来につながっているとは考えられていない。 ○キャリア教育により、自分のことを客観的に振り返ったり、今後に生かしたりするようになった。また、委員会活動やなかよし班活動において、高学年らしく行動するようになった。 ○道徳の時間や総合的な学習の時間において重点的に指導した。グループ学習や教え合い等、教科の特性を生かした関りを心掛けた。				
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価	人数	コメント	
一人別目標が個性と能力を發揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケート（生活4）や保護者アンケート（4）から自分よいくところがあると感じている。	4：85%以上	○道徳や日常生活の中で常に育成を図っている。教育活動全体で行えていると思う。 ○道徳の時間では学校生活に関連ある題材を取り上げたり、道徳の時間で学んだことを学校生活に生かしたりすることで、児童が道徳心を育成できている。 ○道徳の時間を中心に各教科等で育成している。キャリア教育と関連付けて、行うこともできた。教科を通して生活指導・豊かな情操の育成を心掛けている。	A	10	◇文字を書く力を児童の時代につけてもらうことは、大変重要なことと思います。  ◇グループで協力し堂々と発表できています。もう少し大きな声が出るというですね。  ◇中学生、大人になってもチャレンジ好き、何があっても大丈夫と思える人に育つとよいと思います。	
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。								
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	○区漢字検定では、検定に関係なく日々漢字の復習を行い、既習の漢字を使おうとする意欲が高まっている。テストやノートの点検を通して学力の定着度を把握し、必要に応じて個別指導を行っている。 ○算数では、習熟度別に指導をして学力の定着を図った。各教科に合った技術指導や個別指導を心掛けている。 ○担任が多いため、きめ細かい習熟度に分けられている。算数少数だけでなく、他の教科でも習熟の差が生まれないように教え合ったり、聞きやすい環境に座席配置を自ら選んだりしている。（五組）	3：75%以上	4	○体育での体力向上や給食指導には力を入れている。好き嫌いせずに苦手なものに挑戦する児童が増えた。 ○保健や総合の時間では、健康に関わる授業や食育に関する授業を行っている。高学年では「カムカム給食」の取り組みをさらに効果的にさせるために講師を招いて授業を行った。学校公開で保護者と共に行うことができた。	B	0	◇積極的な道徳授業に取り組む姿勢が見られた。  ◇さまざまな取り組み、本当にありがとうございます。地域としても少しでもお役に立てれば…と思います。
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。								
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	○中学との連携は図れている。高学年の授業でも、中学校への見直しをもった指導をしている。また、中学生の生活について中学生や中学校の教員から聞き取り、適宜児童に教えることで円滑な接続を行えている。 ○幼児教育センターの方と情報交換し、幼保小で連携が図れている。学年の系統性を考えて題材構成している。	2：65%以上	3	○様々な経験を通し、学んだことを生かそうとする力については、日々の授業が知識の活用になるように単元の内容を一部変更したり、児童に意識させたりしている。 ○おたの未来づくりでは、教科の学習で学んだことを生かして、地域の方への発表に取り組む活動を行った。 ○総合的な学習の時間を中心に活用できる場を意図的に設定した。	C	0	
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		1：65%未満	3		D	0	
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		⑤学び得た知識を活用しようとする力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3			3			0	
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。								

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価 人数	コメント		
学 校 別 目 標 4 学 校 力 ・ 教 師 力 を 向 上 さ せ ます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	保護者のアンケート(A-1, 2, 3, 4)からキャリア教育の観点から4つの力(気づく力、伝える力、チャレンジする力、つなげる力)が身に付いている。	4: 80%以上	○東京都教職員研修センター不登校対策の研究に協力する中で、個人で調べたり、グループでどのように発表するのかを相談したりする学習を多くの教科で進めた。 ○個の学びをグループや全体に生かしたり、グループで考えたことを基に、また個で考えたりするなど個別最適で協働的な学びをすることができた。 ○児童一人一人の学習に対する思いや願いを知り、意欲的に取り組めるように指導している。一人ひとりの実態に寄り添い、声をかけることができた。	A	7	◇学校という空間が特殊なものになってしまふと、社会に出て、会社という組織の中で通用・適応できない人間を育ててしまうことになると思います。 ◇先生方は児童に対して真剣に向き合っているのを感じるが、教員間の個々の負担が大きく、各教職員の善意に頼る状況になっていないかを懸念しています。	
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。								
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	保護者のアンケート(A-1, 2, 3, 4)からキャリア教育の観点から4つの力(気づく力、伝える力、チャレンジする力、つなげる力)が身に付いている。	3	3: 75%以上	○専門性を生かした活動が行えている。研究発表に向けて、それぞれの得意なことを生かしてキャリア教育を進めることができた。また、おたの未来づくりの地域創生では、こども会やこども天国など地域を盛り上げ、交流する活動を年間を通して取り組むことができた。それぞれの専門性や得意分野を生かして指導している。	B	3	◇児童に4つの力を伸ばすポイントを示したことがわかりやすいと思う。重点がわかるのが良い。保護者には伝わっていなかったのかもしれない。 ◇先生方もご自身のキャリア、生き方を大切になさってください。 ◇積極性の高い教師が多いと感じる。
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。								
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4：「おおむね高まっている」と全教員が回答した。	2	保護者のアンケート(A-1, 2, 3, 4)からキャリア教育の観点から4つの力(気づく力、伝える力、チャレンジする力、つなげる力)が身に付いている。	3	1: 65%未満	○この時間を児童に向き合う時間にしたい。放課後の会議の精選がされており、児童と向き合う時間は確保できている。 ○教員はとても協力的だが休み時間や放課後等に活動を行うことが難しい。 ●教育委員会からの調査や作成文書等の時間がかかっている。	C	0	◇忙しい中、教師力を向上させるための努力は、本当に大変だと思います。お疲れ様です。
			3：80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。								
			1：「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。								
③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4：「おおむね高まっている」と全教員が回答した。	2	保護者のアンケート(A-1, 2, 3, 4)からキャリア教育の観点から4つの力(気づく力、伝える力、チャレンジする力、つなげる力)が身に付いている。	3	1: 65%未満	○この時間を児童に向き合う時間にしたい。放課後の会議の精選がされており、児童と向き合う時間は確保できている。 ○教員はとても協力的だが休み時間や放課後等に活動を行うことが難しい。 ●教育委員会からの調査や作成文書等の時間がかかっている。	D	0	◇忙しい中、教師力を向上させるための努力は、本当に大変だと思います。お疲れ様です。		
	3：80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。										
	2：60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。										
	1：「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。										

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価 人数	コメント	
個別目標5 困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します		①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケート（生活1, 2）や保護者アンケート（1, 2）から学校生活を楽しく過ごしたり、友達と良い人間関係を築いている。	4：85%以上	○サポートルームに通う児童の情報を伝え合って一人一人の実態に応じて適切に声を掛けながら支援をすることができた。サポートルームと担任、特支COとの連携はできている。 ○特別支援学級との交流を活発化させている。 ●校内委員会を開いたり情報交換ができています。校内の支援体制はできる限り配慮しているが、時間数及び人材確保、人材育成が課題。	A	10	◇児童同士の交流を多くし、インクルーシブ教育を推進してほしい。  ◇今は、児童一人一人の状況に合わせての教育指導で、先生も大変だと思います。先生自身が疲弊しなければいいと思う時があります。  ◇報告内容からすると、適切な対応をしていると受け止めています。  ◇矢東小の良さがとても出ていて、伝統となってほしいです。  ◇子供への配慮がされている。休みの連絡などの際に感じる。
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4：「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。	4	3：75%以上	4	○日頃から児童一人一人の様子を細かくチェックし、様子の変化には早期対応ができています。また、いじめアンケートの結果を基に、必要に応じて聞き取りや児童の見守り等を実施している。 ○学年主任や養護教諭、管理職と情報交換を行いながら取り組むことができた。いじめ対策委員会を随時開催し、対策など共有できています。	B	1	◇学校としてもかなり頑張っていると思います。SSWさんの人数も増えたりするともっと良いのかなあとも思ったりいたします。
			3：85%以上100%未満の教員が回答した。							
			2：70%以上85%未満の教員が回答した。							
			1：「組織的な対応ができた」と回答した教員が70%未満であった。							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	2：65%以上	4	○すぐに相談できる環境をつくり、担任だけでなく学年、養護、SCなど組織的に対応することができた。支援が必要であるがつながりを拒む場合など、外部との連携を強めたい。 ●様々な連携が取れている。SCが毎回どうしても勤務時間内に業務を終わらせることができないのが、課題。	C	0	
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							
		④学校生活調査やWebQU、生き生き度調査を実施し児童の様子を把握している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	1：65%未満	4	○児童の受け止め方の傾向を把握し、指導や支援、声の掛け方、掛けるタイミング、様子を見取することに役立てることができた。調査結果を日常の指導に生かしている。	D	0	
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							



大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
地域学校個別コミュニティ・家庭・地域の核としての連携・協働による学校づくり	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート(8)から学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えている。	4：85%以上	○PTCが矢東こどもまつりなど、こどもたちが楽しめる取り組みを行い、教職員もそれに参加している。 ○「おおたの未来づくり」の「地域の創生」では、地域の店舗に協力をあおぎ学習を進めている。地域の人材活用の計画を立てている。 ○地域を学習に活用している。地域の方々は、学校にとっても協力的だった。「地域コミュニティとしての学校づくり」とは何か、どんなことを指しているのかを確認したい。町探検では地域の方と協力して活動している。	A	5	◇交通安全週間等の見守り時、きちんと挨拶のできる、感謝の気持ちを伝えてくれる児童もいる。1年たつと変わるもので、交通安全の旗振りの時、挨拶をしてくれるようになってきました。とても嬉しく思います。 ◇講演会に出る保護者が少ないので残念である。
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	2	○用務員さんや児童誘導員さんが登下校の見守り活動を行っている。町会の方も交通安全運動を実施していて、安全を見守ってください。	75%以上	B	2	◇学校の行事などには、親が参加していると思いますが、地域の行事などはほとんど参加しません。自分の住んでいる地域にもっと関心をもってもらいたいです。
			3：85%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：70%以上85%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が70%未満であった。							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	1	○年三回程度、学校公開の時に地域の方や講師などを招いて講演をしていただいている。	65%以上	C	3	◇地域社会の大人たちに学校の取組について協力的な方がいることは把握できました。まだ、地域社会と学校の連携というより関係性を近づけるために見合っている印象を受けました。
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
					1：65%未満	D	0	◇地域との連携は他学校に比べると少ないと感じる。自治会（地域性）もあるが改善できると思いたい。 ◇低め過ぎの評価のような気がします。これについては、地域の関わり方もかなり重要なポイントです。学校（先生方）だけの問題ではないので、自己評価しにくい項目だと思います。		

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である  
 C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載